

第2回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 議事要旨

1. 開催日時：平成26年9月4日（木）13：30～15：30
2. 場 所：千曲川河川事務所 2階 大会議室
3. 出席者：平林委員、島野委員、豊田委員、北野委員、傳田委員、中村委員、
宮原委員（吉川代理）、村田委員（伊藤代理）、藤田委員（武田代理）、
北島委員（小根澤代理）、青木委員（高見澤代理）、清水委員（西林代理）、
竹内委員、富岡委員、依田委員、宮武委員
4. 議事概要（凡例：「◇」事務局からの連絡、「＊」質疑、「→」回答、「☆」意見
 - 1) 第1回検討会以降の経過
 - ◇第1回検討会の議事要旨について、千曲川河川事務所ホームページで公開した。
 - ◇第1回検討会のあと、モニタリング部会と技術部会を設け、専門的な意見を頂いた。
モニタリング部会は、事前・事後調査に対する助言を頂いた。技術部会は、河川工学的な視点の助言を頂いた。
 - 2) 平成26年度の砂礫河原再生について
 - ①実施箇所の選定とその考え方
（A委員）
☆インパクトレスポンスフローにおいて「砂礫河原の減少」に伴い、「河原依存の生物の減少」まで記載した方が良い。
 - ②実施内容（河道掘削形状の設定等）
（B委員）
＊上流部を掘削することで「たまり」は水をかぶりやすくなるが、魚類や底生動物への影響について考えているか。
→河床変動予測では、事業を実施しない場合より実施したほうが、たまりに土砂が堆積しにくい結果となっているため、影響は少なくなるのではないかと考えている。
→上流側の中州を保全し、たまりへの伏流水を維持することを考えている。
（B委員）
＊本川から切り離されたたまりが、系として成り立っているのか。
（C委員）
→たまりには、本川にもいる比較的、普通種が生息しているため、産卵場所や稚魚の生育場となっていると推定できる。湧水池で期待されるスナヤツメのような種は、確認されていない。
（D委員）
☆すでに要望を出しているが、大きな石は運びださないで工事をしてほしい。川やたまりに大きな石があると魚が棲みやすくなる。去年の台風の後、ウグイも徐々に増えつつあることを報告させていただく。
（E委員）
☆樹木の伐採計画は、砂礫河原の保全上、やむを得ないと思う。通路より堤防側の樹木を残していただければ結構である。
（A委員）
＊護岸を補強する巨石は、どこからもってくるのか。おなじ千曲川流域の石をもちい

るのか。

→工事の受注者により変わるが、同じ流域の石である。

(A委員)

*工事用道路を作って掘削を行うと思うが、工事にあたって保全する場所などについての説明は、どのように行うのか。

→工事の受注者が決まり仮設計画ができた時点で、養蜂業の方、漁協の方に説明する。

③事前モニタリング結果と事業実施の配慮事項

(A委員)

☆掘削箇所周辺で確認されたカワラヨモギなどの貴重な植物については、「保全する」ということであるが、周辺を掘削することで環境が変わり、保全できなくなる可能性がある。その辺、専門家の意見を聞きながら、保全できるように対応をお願いしたい。

☆水域の調査において、上流側に対象区（自然再生を行わない地区）が設定されているが、この対象区に影響をあたえる工事などを行わないようにしてほしい。

(F委員)

☆洗掘対策箇所について、再び護岸前面部が洗掘されてくると河原にも影響が出るため洗掘状況についてモニタリングを行うことは重要である。

☆水際域にも注目して、航空写真などから平面的な水際の形の複雑さをモニタリングしたほうが良い。

☆中長期的に、今回の河道掘削箇所により、もう少し広い範囲のワンド、たまりへの影響についても、河川水辺の国勢調査から、わんど・たまりを確認していくことも重要である。

(D委員)

☆ウグイについては、豊漁であるが、アユについては、長野県全体で低迷している。

3) 地域住民との協働による自然再生の取り組み

(A委員)

☆地域住民の方に、行政がやっていることを知っていただくことは非常に重要である。行政の委員の方々には、この重要な役割を担っていただいているので、是非、ご協力を願いたい。

4) 今後の予定について

◇立教大学理学部研究員笠原里恵さんが新たに委員として推薦され、了承された。

◇年度内に工事を完了させる予定であり、現地視察と合わせ第3回検討会を開催する予定である。

◇第3回検討会では、平成27年度事業実施箇所及び自然再生計画書を提示し、今後の整備箇所についての意見聴取を行う予定である。